阿賀野市立吉田東伍記念博物館

友の会通信 2009

No.3（通巻56号） 2009.10.10発行

■ 目次

新潟県立歴史博物館移動展覧会「天地人と揚北」展の開催迫る！…… 1
小惑星に「吉田（東伍）」と命名 国際天文学連合（IAU）の小惑星命名委員会（アメリカ）が認定／【特別寄稿】「小惑星・吉田」誕生の経緯 …… 2
阿賀野市立吉田東伍記念博物館クリスマスコンサート …… 3
秋の研修旅行／サークルだより『白河荘を歩く会』／友の会伝言板／編集後記 …… 4

発行：吉田東伍記念博物館友の会　〒959-2221　阿賀野市保田1725－1（阿賀野市立吉田東伍記念博物館内）
TEL0250-68-1200　FAX0250-68-5016　web版友の会通信http://wind.ap.teacup.com/togo/

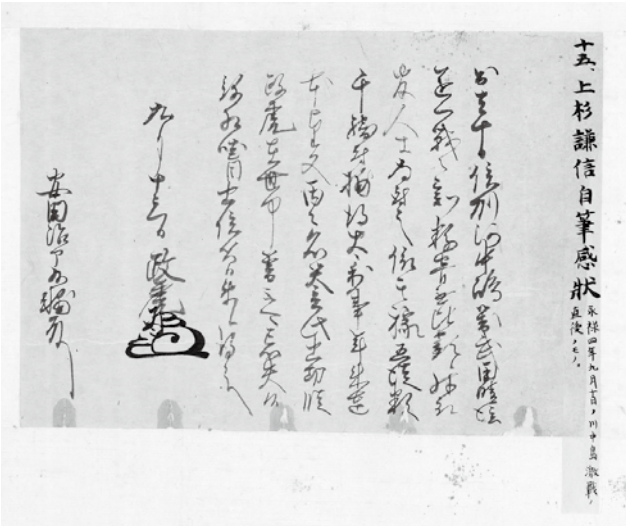
大見安田氏・水原氏文書が約400年ぶりに里帰り

新潟県立歴史博物館移動展覧会「天地人と揚北（あがきた）」展の開催迫る！

慶長３年（1598）の上杉氏の会津国替えとともに、安田・水原の地を離れた古文書群が約400年ぶりに阿賀野市で展示されます。新潟県立歴史博物館が所蔵する国指定重要文化財「越後文書宝翰集」は、鎌倉時代から戦国時代にかけて、越後国に拠点を持った武士団や寺院に伝来した古文書705通を全44巻の巻物に仕立てたものです。この中には「揚北衆」とよばれた阿賀野川以北の武将たちの家に伝えられた古文書も含まれています。今回の展示会では、「越後文書宝翰集」のうち大見水原氏文書・大見安田氏文書を、新潟県立歴史博物館に収蔵されてから初めて阿賀野市で公開するものです（前期・後期での展示替えあり）。

「紀州本川中島合戦図屏風」（複製、新潟県立歴史博物館所蔵）、文禄４年（1595）に安田村・草水村などで実施された太閤検地帳（齋藤家所蔵文書）、「直江兼続書状」（直筆、長岡市立中央図書館所蔵）など、「天地人」の時代の実像を伝える資料を特別展示。大河ドラマ「天地人」ではふれられていない、揚北の武将たちの活躍を上杉謙信、上杉景勝、直江兼続の生涯とともにたどります。

吉田東伍記念博物館友の会も展示準備や会場スタッフ、関連行事の企画（４ページ参照）などで協力し、展示会を積極的に盛り上げていきます。お誘い合わせのうえ是非ご来場ください。



▲上杉政虎（謙信）感状
（安田治部少輔宛、「越後文書宝翰集」、新潟県立歴史博物館所蔵）
展示期間：10月20日～11月１日

平成21年度

新潟県立歴史博物館移動展覧会「天地人と揚北」

会期／**10月20日㊋～11月15日㊐**　前期：10月20日～11月1日　後期：11月3日～11月15日

※展示解説（10/25）・講演会（10/25）・シンポジウム（11/7）・体験イベント（10/31）を開催します（チラシをご覧ください）

主催／新潟県立歴史博物館・阿賀野市立吉田東伍記念博物館
協力／吉田東伍記念博物館友の会

休館日／月曜日　開館時間／9時30分～17時
入館料／一　般：500円　友の会会員は200円
小・中学生：250円

小惑星に「吉田（東伍）」と命名

国際天文学連合（IAU）の小惑星命名委員会（アメリカ）が認定

1986年2月に栃木県のアマチュア天文家によって発見され、これまで登録番号で呼ばれていた無名の小惑星に新潟県のアマチュア天文家が「吉田東伍」の名前を付けるよう登録提案。このたび国際天文学連合（IAU）の小惑星命名委員会（アメリカ）によって小惑星【Yoshida】と認定され、公表されました。小惑星【Yoshida】の明るさは16.5等星（肉眼で見ることができる最も暗い星の約1万分の1）で、現在、秋の夜、東に高くみえる「ペガスス座」に位置しています。

命名を提案された当事者である新潟天文研究会の畑山和也氏から経緯について寄稿していただきました。

特別寄稿　「小惑星・吉田」誕生の経緯

畑　山　和　也（はたけやま かずや）

この度、小惑星・吉田を命名提案した新潟天文研究会及び東亜天文学会会員の畑山（ハタヤマ）と申します。「小惑星・吉田」誕生は皆様にとって、突然の出来事だったと思いますが、ここでその経緯についてお話しします。

去る2月22日、子供とドライブ中に、たまたま吉田東伍記念博物館の看板が目にとまり、立ち寄ったのが事の始まりです。上記の紹介のとおり、私の趣味は天文ですが、入館してすぐにチケットに描かれた七星のマークが、とても気に入りました。そして館内を見学すると直ぐに東伍の描いた日食図が目に飛び込んできました。1887年の皆既日食は日本の天文史に残る一大天文現象です。「これは凄い資料だ！」まさか吉田東伍記念博物館で天文に関する資料があったとは、私にとって大発見でした。

一通り館内を見学した後、日食図や七星のマークについて受付の方に質問しましたが、その際、吉田東伍が天文にも関心をもっていた事を教えて頂きました。

話は変わりますが、私の夢はいつか小惑星を発見する事です。小惑星の発見は、彗星、新星、超新星の発見とは違い、複雑な観測などを行わなければ発見者にはなれませんが、それをクリアーすれば、その星にある程度好きな名前を命名する事ができます。もし、私が小惑星を発見できたなら、ぜひ星好きの新潟の偉人・吉田東伍の名を命名しなければいけないと妄想を想い描きながら博物館をあとにしました。

そして運良く、わずか１ヵ月後にそのチャンスが巡って来たのです。3月下旬、私が所属する東亜天文学会の会誌に「小惑星名公募のお知らせ」と書かれた記事が掲載されたのです。私は直ぐに吉田東伍の小惑星命名推薦文を作成し、応募しました。

その後、東亜天文学会からは途中経過のお知らせはあったものの、正式に小惑星・吉田が命名されたとの連絡はありませんでした。7月上旬、たまたま見た天文雑誌 に小惑星・吉田の名が掲載されているのを見て、無事に誕生した事を知りました。こう書くと呆気ないような気がしますが、私としては星への命名の価値が人一倍に知っているが故「ついに命名されたゾ～」と感激しました。

命名後、吉田東伍記念博物館の館長から、会津八一が吉田東伍の没した翌年に「星ならば君はどの星夕涼み」という句を詠んで、献じていると教えて頂きました。会津八一もすでに小惑星に命名されていますが、あらためてこの句を読むと、幸運というより不思議な運命を感じてしまいます。

新潟の偉人・吉田東伍の名が星（小惑星）に刻まれたことは、地元新潟県人としても、我々天文を愛する者にとっても誇らしい出来事だと思います。命名されて本当に良かったです。

ここで小惑星・吉田についての発見及び誕生の過程を私なりにまとめましたので御紹介しましょう。

○1976年（仮符号1976FF）及び1984年（仮符号1984WN2）に「吉田」と命名される前の小惑星が仮発見されていますが、仮軌道が確定する前

に見失われています（参考：仮符号を取得するには、その星が既知小惑星か新小惑星かを判断するために２夜の観測が必要）。

○1986年2月8日、栃木県のアマチュア天文家チームにより再び仮発見に成功しました。固有略号IU-004を経て、仮符号1986CHを取得。後日、3夜以上の観測にも成功し、仮軌道が確定。漸く未確定小惑星として認定されました。加えて別の観測者が仮発見していた小惑星1986AV2や先の1976FF及び1984WN2も同小惑星と判明しました。

○1988年12月23日、国際天文学連盟・小惑星センター（アメリカ）の小惑星回報MPCより発表。正確な軌道が判明した事で未確定小惑星から確定小惑星へ番号登録。これにより正式な小惑星として認定されました。登録番号は3950。

栃木県の発見者チームには命名提案権が与えられましたが、その後、20年以上も命名提案せず登録番号のみで呼ばれ続けました。

○2009年3月下旬、発見者の１人より、命名権が東亜天文学会の理事長（当時）に譲られたため募集を開始。私より､｢吉田東伍｣の名を命名提案。

○2009年6月8日、国際天文学連盟･小惑星センター（アメリカ）の小惑星回報MPCより､命名が発表。この日が小惑星・吉田の誕生日となりました。

加えて自説ですが、小惑星・吉田が新潟に関連した小惑星としては、一番古い登録番号の小惑星ともなりました。

以上、これが小惑星・吉田の大まかな発見及び誕生の過程です。おそらく小惑星の発見に興味がなければ普通のアマチュア天文家でさえ、理解に苦しむ内容かと思いますが、それほどまで小惑星の発見には複雑な過程があると知って頂きたいと思います。

さて、小惑星は、木星を筆頭に各惑星の重力の影響を受けて軌道が変わると言われていますが、今のところ小惑星･吉田は太陽を5.19年かけて回っています。地上から見た明るさは最大でも16.5等前後でしょうか。おそらくこの暗さでは、新潟県内の大型望遠鏡を使っても、眼視での確認は不可能だと思われます。

今はペガスス座に位置していますが、まずは小惑星・吉田が位置している星座を探し、「あの辺りにあるのかナ～」と想像を膨らませて夜空を見上げてくれたなら、命名提案者としてとても嬉しいです。話が飛躍しますが､もし吉田東伍が存命なら､きっと本人が一番見てみたいと思われたでしょう。

最後になりましたが、小惑星・吉田が誕生した後、吉田東伍記念博物館の皆様には天文雑誌掲載用の写真提供など色々とご協力して頂きました。加えて吉田東伍にまつわる貴重なお話も沢山聞かせて頂きました。この場を借りて、お礼を申し上げます。

阿賀野市立吉田東伍記念博物館クリスマスコンサート

TOGO Museum Ensemble 第11回演奏会 ～メモリアルな作曲家たち～

今年は、ヘンデル没後 250 年・ハイドン没後 200 年・メンデルスゾーン生誕 200 年にあたります。メモリアルな作曲家の名曲の数々をひと足早いクリスマスプレゼントとしてお届けします。恒例のＴＭＥ演奏会を今年もお楽しみください。

日　時：**12月20日㈰　14:00開演（13:30開場）**

会　場：阿賀野市立吉田東伍記念博物館　2階研修室

入場料：入館料のみ（一般300円、小中学生150円）　友の会会員は無料

定　員：50名（先着順）

※友の会事務局まで電話（0250-68-1200）･FAX(0250-68-5016)･メール（y.togo@oregano.ocn.ne.jp）でお申し込みください。

出　演：TOGO Museum Ensemble（弦楽四重奏ほかによるアンサンブル）

プログラム（予定）：ヘンデル「水上の音楽」／ハイドン 弦楽四重奏曲第 63 番「ひばり」／クリスマス・メドレー　ほか

「天地人と揚北」展関連 友の会行事

秋の研修旅行 博物館めぐり

～米沢市上杉博物館と「天地人博2009」～

秋の研修旅行は現在放映中の大河ドラマ「天地人」の舞台で、主人公の直江兼続が晩年を過ごした米沢市を訪ねます。関ヶ原の戦い後、兼続が心血を注いだ米沢のまちづくりに思いをはせる旅です。7月の研修旅行・南魚沼市の続編として是非ご参加ください。

期　　日／**11月9日㈪**

集　　合／午前7時30分：新津地域学園　　午前8時：阿賀野市安田体育館駐車場

行　　程（予定）／ 7:30 新津地域学園発 ⇨ 8:00 阿賀野市安田体育館駐車場発 ⇨ 磐越道安田IC ⇨ 10:30 上杉家御廟所
⇨ 11:00 昼食（上杉城史苑にて芋煮御膳） ⇨ 米沢城址（上杉神社・稽照殿・松岬神社）
⇨ 13:00 米沢市上杉博物館「天地人博2009」 ⇨ 15:00 林泉寺（兼続・おせん夫妻墓所）
⇨ 15:30 米沢市発 ⇨ 18:00 阿賀野市安田体育館着 ⇨ 18:30 新津地域学園着

参加費／会員 6,000 円、非会員 7,000 円
※交通費・入館料・昼食代・保険料等を含みます。
※当日入会も可能ですのでご家族・ご友人などお誘い合わせのうえご参加下さい。

定　　員／30名（先着順）

申し込み／11月5日㈭までに、電話 0250-68-1200、FAX0250-68-5016、
メール y.togo@oregano.ocn.ne.jp でお申し込みください。

サークルだより

白河荘を歩く会　10月例会

～「天地人と揚北」展関連企画～

日　　時：**10月29日㈭　13:30～16:00**

場　　所：阿賀野市立吉田東伍記念博物館

学 習 会：矢田俊文・新潟県立歴史博物館編『越後文書宝翰集 大見安田・水原氏文書』（同館発行、定価800円）をテキストに、開催中の「天地人と揚北」展を見学します。同書は会期中、吉田東伍記念博物館の受付で購入できます。

参 加 費：200円（入館料）

※活動への申し込みは、資料準備の都合上、前日までに友の会事務局（博物館内）へ電話（0250-68-1200）・FAX（0250-68-5016）・メール（y.togo@oregano.ocn.ne.jp）でお申し込みください。

□友の会伝言板 …… 事務局より

①「天地人と揚北」展会期中の土・日・祝日の会場スタッフ（ボランティア）を募集しています。詳しくは事務局へお問い合わせください。

②10月27日㈫からNHK文化センター新潟教室で「地名の扉をたたこう～にいがた再発見！～」が開講されます。講師は、友の会会員でもある新潟県地名研究会の長谷川勲会長です。

③10・11月に中越大震災5周年と復興を祈念して、長岡市で歴史講座「中越大震災～史料保存の現場から」（全5回）が開催されます。友の会会員でもある田中洋史さん、文化史研究者・小野民裕さんがお話をされます。

④友の会サミットやサークル活動など活動情報満載の「web版友の会通信」（http://wind.ap.teacup.com/togo/）をご覧ください。

⑤吉田東伍生家の日本庭園がまもなく紅葉の季節を迎えます。10月4日、安田商工会女性部の皆さんと当会会員が共同で庭内美化の奉仕作業を行いました。「天地人と揚北」展の観覧とともに秋の装いの庭内をお楽しみください。

編集後記

「天地人と揚北」展のお手伝いで、笹岡城の写真を撮りに行ってきました。稲刈りが終わった田んぼの中を歩くと、何ともいえない足の感触と土のにおいに子供の頃の記憶がよみがえりました。食欲の秋に、芸術の秋。ヨーグルトと油揚げをお土産に、「天地人」の時代を探求することが楽しみなこの秋。博物館通いがまたまた増えそうです。（H・T）